



後期が始まり、今年度も折り返し

校長 加藤 憲司

木々の葉が色づき、季節の移ろいを感じる頃となりました。10月17日(土)に実施した運動会では、多くの保護者、地域の皆様にご来校いただきありがとうございました。練習期間もよい天気が続き、当日は少し汗ばむ秋空の下、実施することができました。日頃の学習の成果だけではなく、学級の友達と協力することなど、多くの学びがあり、子供たちは大きく成長することができました。次年度に向け、保護者や地域の皆様のアンケートも踏まえ、子供たちにとってよりよい運動会となるよう検討していきます。

足立小学校は10月13日から後期が始まりました。後期の始業式では、「今年度も折り返しを迎え、1年生は2年生に、6年生は中学生に向けた大切な準備の期間である」ことを子供たちに伝えました。全ての児童にとって、実りある後期になることを期待しています。

子供たちの「未来を拓く学び」を目指して

現在、国では令和12年度(2030年度)から小学校で実施予定である学習指導要領(学校がどのように教育を行うべきかの指針)が検討されています。今月、国の審議会から次の時代を見据えた新たな学習指導要領に向けた「審議まとめ」が示されました。社会の変化が激しく、予測困難と言われるこれからの時代を生きる子供たちにとって、どのような学びが必要なのか、その方向性が明示されています。今回は、この審議まとめから、特にデジタルについてのポイントと、今後の本校の取組の方向性についてお伝えします。

①「デジタル教科書」の本格活用と新たな学び

小学校4年生以下は紙を使わない「デジタルのみ」の教科書は認めない、5年生以上も英語や音楽、図工など一部の実技教科のみ認めるなどが報道されていますが、審議まとめでは、紙の教科書とデジタル教科書を併用し、それぞれの強みを活かした学びを深めることが示されています。

また、デジタル教科書を活用することで、文字の拡大や音声読み上げによる理解のサポート、動画や音声を用いた視覚的・直感的な理解が可能になりますが、一方で「視力が落ちる」「学力が落ちる」といった不安の声も上がっています。今後、デジタル端末やデジタル教科書子供たち一人ひとりの習熟度や学びの特性に応じた「個別最適な学び」を支える重要なツールとして、計画的に活用を進めていくことが重要です。

②「自分で考え、主体的に行動する力」を育む

単に知識を覚えるだけでなく、集めた情報を活用して課題を発見し、納得のいく解を導き出す力が求められています。デジタル端末を活用して調べたり考えを共有したりしながら、子供たちが自分の問いから出発して主体的に探究するプロセス(探究的な学び)を重視していくことが重要です。

③ デジタルと「リアルな体験」のバランス

ICTの活用を進める一方で、実際に手や足を動かす「リアルな体験活動」の価値も再確認されています。これまで同様に、理科の実験や観察、地域での体験学習、仲間との運動や芸術活動などの豊かな体験を変わらずに重視し、豊かな心と身体をバランスよく育てていきます。

次年度 of 自然教室の日程が決まりました

令和8年度の日光自然教室(6年)は、令和9年5月13日(木)～15日(土)、那須甲子自然教室(5年)は、令和10年1月26日(水)～28日(金)の予定です。5年は今年度に引き続き国立那須甲子青少年自然の家に宿泊する予定ですが、クマへの対策等を検討した結果、雪中活動をメインとした内容を検討しています。詳細については、次年度の学年から説明させていただきます。施設のホームページにも雪中活動について紹介されていますので、ご覧ください。(<https://nasukashi.niye.go.jp/aactivitycontent/snow>)